





審査結果報告書

2022 年 1 月 26 日

主査	氏名	宮地 鑑	
副査	氏名	青山 道善	
副査	氏名	武田 啓	
副査	氏名	佐藤 文子	

1. 申請者氏名 : DM18006 大木 卓巳

2. 論文テーマ :
心臓再同期療法後の心機能推移と予後に関する臨床研究

3. 論文審査結果 :

心臓再同期療法 (Cardiac Resynchronization Therapy: CRT) は、至適な薬物療法を行っても高度収縮障害及び左室伝導障害を呈する心不全患者に対して、同期不全を改善して自覚症状や予後を改善する非薬物療法である。CRT による左室逆リモデリング (Left Ventricular Reverse Remodeling: LVRR) は強力な予後予測因子であることが知られている。

研究Iでは CRT 後の心機能改善のタイミングとその予後について検討し、研究IIでは CRT 後の心機能再増悪の予測とその予後について検討している。

研究Iから、CRT response を認めた患者は LVRR のタイミングに関わらず、CRT response を認めない症例より良好な予後を認め、導入前の QRS 幅の短縮および導入後の中程度以上の僧帽弁閉鎖不全の存在が、CRT response を認めない予測因子であることが明らかとなった。

また、研究IIから、CRT response を認めた患者の 30%程度が左室駆出率の再増悪をきたし、これは予後不良と関連していた。CRT response を認めた患者のうち、心不全罹患期間が長く、非特異的な心室内伝導遅延を有し、初めて CRT response を認めた時に左室駆出率の上昇の程度が低い患者は、再増悪する可能性が高いことが示された。

以上のように本論文は新しい知見、および臨床的示唆を含んでおり、学位論文として相応しいものと考えらる。